

PAT-NO: JP408057091A
DOCUMENT-IDENTIFIER: JP 08057091 A
TITLE: SELF-STANDING GOLD BAG

PUBN-DATE: March 5, 1996

INVENTOR-INFORMATION:

NAME	COUNTRY
HAMAMORI, TATSUROU	

ASSIGNEE-INFORMATION:

NAME	COUNTRY
KK ABUA N/A	

APPL-NO: JP06215368
APPL-DATE: August 16, 1994

INT-CL (IPC): A63 B 055/06

ABSTRACT:

PURPOSE: To provide a self-standing golf bag capable of surely supporting a large load with a relatively simple structure when a golf bag main body is stably erected at the prescribed angle and having high durability.

CONSTITUTION: This self-standing golf bag is provided with a golf bag main body, stand legs 22 connected to the golf bag main body, an upper connecting means 20 connecting the upper sections of the stand legs 22, a lever 18 formed near the bottom section of the golf bag main body, a regulating means regulating the angle that the god bag main body does not fall down, and stand leg support rods 24 interlockingly connecting the lever 18 and the stand legs 22.

COPYRIGHT: (C)1996,JPO

(19) 日本国特許庁 (J P)

(12) 公開特許公報 (A)

(11) 特許出願公開番号

特開平8-57091

(43) 公開日 平成8年(1996)3月5日

(51) IntCl.⁶

A 6 3 B 55/06

識別記号

庁内整理番号

F I

技術表示箇所

審査請求 未請求 請求項の数11 F D (全 14 頁)

(21) 出願番号 特願平6-215368

(22) 出願日 平成6年(1994)8月16日

(31) 優先権主張番号 実願平6-1867

(32) 優先日 平6(1994)1月28日

(33) 優先権主張国 日本 (J P)

(71) 出願人 594051770

株式会社アヴァ

大阪市北区天満3丁目2番1号

(72) 発明者 濱 森 辰 郎

京都府京都市北区大宮玄塚北町28-13番地

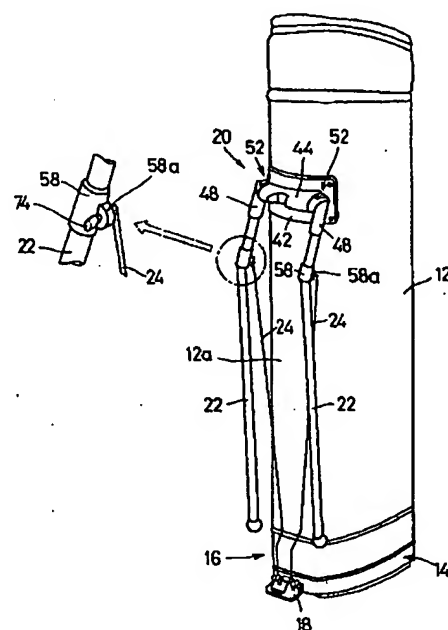
(74) 代理人 弁理士 岡田 全啓

(54) 【発明の名称】 自立型ゴルフバッグ

(57) 【要約】

【目的】 所定の角度でゴルフバッグ本体を安定的に自立させた際に、比較的シンプルな構造で大きな荷重を確実に支えることができ、耐久性の高い、自立型ゴルフバッグを提供することである。

【構成】 この自立型ゴルフバッグは、ゴルフバッグ本体、前記ゴルフバッグ本体に連結されるスタンド脚22、122、前記スタンド脚22、122を上部で連結する上部連結手段20、120、前記ゴルフバッグ本体の底部近傍に形成されるレバー18、118、前記ゴルフバッグ本体が倒れない角度に規制する規制手段36、136および、前記レバー18、118と前記スタンド脚22、122とを連結し、連動させるためのスタンド脚支持棒24、124とを含む。



10

【特許請求の範囲】

【請求項1】 ゴルフバッグ本体、

前記ゴルフバッグ本体に連結されるスタンド脚、
前記スタンド脚を上部で連結する上部連結手段、
前記ゴルフバッグ本体の底部近傍に形成されるレバー、
前記ゴルフバッグ本体が倒れない角度に規制する規制手段、および、
前記レバーと前記スタンド脚とを連結し、連動させるためのスタンド脚支持棒を含む、自立型ゴルフバッグ。

【請求項2】 前記レバーは、前記ゴルフバッグ本体を倒れないように規制する規制手段が形成される、請求項1記載の自立型ゴルフバッグ。

【請求項3】 その胴部に貫通孔を形成された本体支持部が前記ゴルフバッグ本体の底部近傍に形成され、その胴部に貫通孔を形成されたレバー枢支部が前記本体支持部と噛合するように前記レバーに形成され、前記ゴルフバッグ本体の底部の本体支持部とレバー枢支部とが噛合され回転するように、枢軸が前記貫通孔に貫挿された、請求項1または2記載の自立型ゴルフバッグ。

【請求項4】 ゴルフバッグ本体の底部の表面に当接される当接面が前記レバー枢支部に形成され、ゴルフバッグ本体の傾けられたとき、前記当接面がゴルフバッグ本体の表面に当接して、レバーの回転が規制されるように形成されてなる規制手段が形成された、請求項1ないし4のいずれかに記載の自立型ゴルフバッグ。

【請求項5】 前記レバー枢支部の規制手段は、レバー枢支部の枢軸よりゴルフバッグ本体の底部側に向けて形成され、傾いたゴルフバッグ本体の底部の表面とレバー枢支部の当接面とが密着するように形成されてなる、請求項1ないし5のいずれかに記載の自立型ゴルフバッグ。

【請求項6】 前記レバー枢支部の規制手段は、レバー枢支部の枢軸より上方に向けて突き出し形成され、傾いたゴルフバッグ本体の底部の表面とレバー枢支部の当接面とが密着するように形成されてなる、請求項1ないし5のいずれかに記載の自立型ゴルフバッグ。

【請求項7】 前記規制手段は、底部に形成されるストッパと前記ストッパにより回転角度が規制されるレバー枢支部の規制手段とからなる、請求項1ないし6のいずれかに記載の自立型ゴルフバッグ。

【請求項8】 前記枢軸は、その先端に雄ねじが形成されたねじ棒と、その先端に雌ねじが形成されたねじ棒とから形成され、本体支持部とレバー枢支部との貫通孔に貫挿され、前記雌ねじと雄ねじとで螺着して形成された、請求項1ないし7のいずれかに記載の自立型ゴルフバッグ。

【請求項9】 前記枢軸の雄ねじと雌ねじとが螺着された部分は、レバー枢支部内に位置するように形成された、請求項8記載の自立型ゴルフバッグ。

【請求項10】 前記本体支持部は、その中央凸部が幅広で、その中央凸部を挟んで両側に形成される凸部が比較的幅狭であり、

前記レバー枢支部は、前記本体凸部の中央の凸部と両側の凸部との間に嵌合する中間凸部と、前記嵌合する中間凸部の両側に形成され、前記本体凸部の両側の凸部が嵌合するように形成された両側の凸部とからなる、請求項1ないし8のいずれかに記載の自立型ゴルフバッグ。

【請求項11】 前記枢軸の雄ねじと雌ねじとが螺着された部分は、本体支持部の中央の比較的幅広の中央凸部に位置するように形成された、請求項10記載の自立型ゴルフバッグ。

【発明の詳細な説明】

【0001】

【産業上の利用分野】この発明は自立型ゴルフバッグに関し、特にたとえば、スタンド脚を所定の角度で拡げて支えさせることにより、ゴルフバッグを自立させることができるゴルフバッグに関する。

【0002】

【従来の技術】従来のスタンド付きゴルフバッグは手で脚を広げ、また閉じる作業が必要であり、不便であった。また、他の自動のものでは、地面からの圧力またゴルフバッグの重量により脚は自動的に開閉するが圧力を受ける箇所が鋼線のみであったため、実際の使用にあたっては地面の柔らかい所や草で覆われた区域等の表面では圧力が地面方向へ逃げ、特に操作に戸惑う事があった。更に他の自動のものでは脚の広がりや一定以上防ぐために、脚部とゴルフバッグ本体とをベルトで止める等複雑な構造のものがあるが使用しているうちに故障が起りやすかった。その他、実開平4-88971号のスタンドが備わったゴルフバッグが提案されている。

【0003】

【発明が解決しようとする課題】しかしながら、実開平4-88971号のゴルフバッグは、構造が複雑なために、使用中に故障が起りやすい。

【0004】それゆえに、この発明の主たる目的は、所定の角度でゴルフバッグ本体を安定的に自立させた際に、比較的シンプルな構造で大きな荷重を確実に支えることができ、耐久性の高い、自立型ゴルフバッグを提供することである。

【0005】

【課題を解決するための手段】請求項1の自立型ゴルフバッグは、ゴルフバッグ本体と、ゴルフバッグ本体に連結されるスタンド脚と、スタンド脚を上部で連結する上部連結手段と、ゴルフバッグ本体の底部近傍に形成されるレバーと、ゴルフバッグ本体が倒れない角度に規制する規制手段と、レバーとスタンド脚とを連結し、連動させるためのスタンド脚支持棒を含む、自立型ゴルフバッグである。

【0006】請求項2の自立型ゴルフバッグは、レバーは、ゴルフバッグ本体を倒れないように規制する規制手段が形成される、請求項1記載の自立型ゴルフバッグである。

【0007】請求項3の自立型ゴルフバッグは、その胴部に貫通孔を形成された本体支持部がゴルフバッグ本体の底部近傍に形成され、その胴部に貫通孔を形成されたレバー枢支部が本体支持部と噛合するようにレバーに形成され、ゴルフバッグ本体の底部の本体支持部とレバー枢支部とが噛合され回転するように、枢軸が貫通孔に貫挿された、請求項1または2記載の自立型ゴルフバッグである。

【0008】請求項4の自立型ゴルフバッグは、ゴルフバッグ本体の底部の表面に当接される当接面がレバー枢支部に形成され、ゴルフバッグ本体の傾けられたとき、当接面がゴルフバッグ本体の表面に当接して、レバーの回転が規制されるように形成されてなる規制手段が形成された、請求項1ないし4のいずれかに記載の自立型ゴルフバッグである。

【0009】請求項5の自立型ゴルフバッグは、レバー枢支部の規制手段は、レバー枢支部の枢軸よりゴルフバッグ本体の底部側に向けて形成され、傾いたゴルフバッグ本体の底部の表面とレバー枢支部の当接面とが密着するように形成されてなる、請求項1ないし5のいずれかに記載の自立型ゴルフバッグである。

【0010】請求項6の自立型ゴルフバッグは、レバー枢支部の規制手段は、レバー枢支部の枢軸より上方に向けて突き出し形成され、傾いたゴルフバッグ本体の底部の表面とレバー枢支部の当接面とが密着するように形成されてなる、請求項1ないし5のいずれかに記載の自立型ゴルフバッグである。

【0011】請求項7の自立型ゴルフバッグは、規制手段は、底部に形成されるストッパとストッパにより回転角度が規制されるレバー枢支部の規制手段とからなる、請求項1ないし6のいずれかに記載の自立型ゴルフバッグである。

【0012】請求項8の自立型ゴルフバッグは、枢軸は、その先端に雄ねじが形成されたねじ棒と、その先端に雌ねじが形成されたねじ棒とから形成され、本体支持部とレバー枢支部との貫通孔に貫挿され、雌ねじと雄ねじとで螺着して形成された、請求項1ないし7のいずれかに記載の自立型ゴルフバッグである。

【0013】請求項9の自立型ゴルフバッグは、枢軸の雄ねじと雌ねじとが螺着された部分は、レバー枢支部内に位置するように形成された、請求項8記載の自立型ゴルフバッグである。

【0014】請求項10の自立型ゴルフバッグは、本体支持部は、その中央凸部が幅広で、その中央凸部を挟んで両側に形成される凸部が比較的幅狭であり、レバー枢支部は、本体凸部の中央の凸部と両側方の凸部との間に

嵌合する中間凸部と、嵌合する中間凸部の両側に形成され、本体凸部の両側方の凸部が嵌合するように形成された両側方の凸部とからなる、請求項1ないし8のいずれかに記載の自立型ゴルフバッグである。

【0015】請求項11の自立型ゴルフバッグは、枢軸の雄ねじと雌ねじとが螺着された部分は、本体支持部の中央の比較的幅広の中央凸部内に位置するように形成された、請求項10記載の自立型ゴルフバッグである。

【0016】

10 【作用】請求項1の発明では、ゴルフバッグ本体と、ゴルフバッグ本体に連結されるスタンド脚と、スタンド脚を上部で連結する上部連結手段と、ゴルフバッグ本体の底部近傍に形成されるレバーと、ゴルフバッグ本体が倒れない角度に規制する規制手段と、レバーとスタンド脚とを連結し、連動させるためのスタンド脚支持棒とを含むので、規制手段によりゴルフバッグ本体が倒れない角度に規制される。

【0017】請求項2の発明では、レバーは、ゴルフバッグ本体を倒れないように規制する規制手段が形成されるので、レバーの規制手段により、ゴルフバッグ本体が倒れないように規制される。

【0018】請求項3の発明では、その胴部に貫通孔を形成された本体支持部がゴルフバッグ本体の底部近傍に形成され、その胴部に貫通孔を形成されたレバー枢支部が本体支持部と噛合するようにレバーに形成され、ゴルフバッグ本体の底部の本体支持部とレバー枢支部とが噛合され回転するように、枢軸が貫通孔に貫挿されているので、枢軸を中心としてレバーが回転する。

【0019】請求項4の発明では、ゴルフバッグ本体の底部の表面に当接される当接面がレバー枢支部に形成され、ゴルフバッグ本体の傾けられたとき、当接面がゴルフバッグ本体の表面に当接して、レバーの回転が規制されるように形成されてなる規制手段が形成されているので、レバー凸部に形成された当接面がゴルフバッグ本体の表面に当接してレバーの回転の規制とともにゴルフバッグ本体の傾きが規制され、ゴルフバッグ本体が倒れない。

【0020】請求項5の発明では、レバー枢支部の規制手段は、レバー枢支部の枢軸よりゴルフバッグ本体の底部側に向けて形成され、傾いたゴルフバッグ本体の底部の表面とレバー枢支部の当接面とが密着するように形成されてなるので、レバー枢支部に形成された当接面がゴルフバッグ本体の表面に当接してレバーの回転の規制とともにゴルフバッグ本体の傾きが規制され、ゴルフバッグ本体が倒れない。

【0021】請求項6の発明では、レバー枢支部の規制手段は、レバー枢支部の枢軸より上方に向けて突き出し形成され、傾いたゴルフバッグ本体の底部の表面とレバー枢支部の当接面とが密着するように形成されてなる、レバー枢支部の規制手段が枢軸部分より上方に向けて形

成されているので、より確実にゴルフバッグ本体の傾き角度を規制することができる。

【0022】請求項7の発明では、規制手段は、底部に形成されるストッパと前記ストッパにより回動角度が規制されるレバー枢支部の規制手段とからなるので、より確実にゴルフバッグ本体の傾き角度を規制することができる。

【0023】請求項8の発明では、枢軸は、その先端に雄ねじが形成されたねじ棒と、その先端に雌ねじが形成されたねじ棒とから形成され、本体支持部とレバー枢支部との貫通孔に貫挿され、前記雌ねじと雄ねじとで螺着して形成されているので、1本の枢軸が形成される。

【0024】請求項9の発明では、枢軸の雄ねじと雌ねじとが螺着された部分は、レバー枢支部内に位置するように形成されているので、比較的弱い雄ねじと雌ねじとが螺着された部分をレバー枢支部により覆われ、曲げに強くなる。

【0025】請求項10の発明では、本体支持部は、その中央凸部が幅広で、その中央凸部を挟んで両側に形成される凸部が比較的幅狭であり、レバー枢支部は、本体凸部の中央の凸部と両側方の凸部との間に嵌合する中間凸部と、嵌合する中間凸部の両側に形成され、本体凸部の両側方の凸部が嵌合するように形成された両側方の凸部とからなるので、レバー枢支部と本体凸部とが複数の凸部をもって構成され、かつ、それら複数の凸部が嵌合するように構成されているので、レバーとゴルフバッグ本体とが一定の角度を有するまで確実に回動するとともに、適宜な角度で確実に固定される。

【0026】請求項11の発明では、枢軸の雄ねじと雌ねじとが螺着された部分は、本体支持部の中央の比較的幅広の中央凸部内に位置するように形成されているので、比較的弱い雄ねじと雌ねじとが螺着された部分を中央凸部により覆われ、曲げに強くなる。

【0027】

【発明の効果】請求項1の発明では、ゴルフバッグ本体と、ゴルフバッグ本体に連結されるスタンド脚と、スタンド脚を上部で連結する上部連結手段と、ゴルフバッグ本体の底部近傍に形成されるレバーと、ゴルフバッグ本体が倒れない角度に規制する規制手段と、レバーとスタンド脚とを連結し、連動させるためのスタンド脚支持棒とを含むので、規制手段によりゴルフバッグ本体が倒れない角度に規制され、自立させたとき、安定的に自立でき大きな荷重を支えることができる。

【0028】請求項2の発明では、レバーは、ゴルフバッグ本体を倒れないように規制する規制手段が形成されるので、レバーの規制手段により、ゴルフバッグ本体が倒れないように規制され、自立させたとき、安定的に自立でき大きな荷重を支えることができる。

【0029】請求項3の発明では、その胴部に貫通孔を形成された本体支持部がゴルフバッグ本体の底部近傍に

形成され、その胴部に貫通孔を形成されたレバー枢支部が本体支持部と噛合するようにレバーに形成され、ゴルフバッグ本体の底部の本体支持部とレバー枢支部とが噛合され回動するように、枢軸が貫通孔に貫挿されているので、枢軸を中心としてレバーが回動し、接地してゴルフバッグ本体を自立させることができる。

【0030】請求項4の発明では、ゴルフバッグ本体の底部の表面に当接される当接面がレバー枢支部に形成され、ゴルフバッグ本体の傾けられたとき、当接面がゴルフバッグ本体の表面に当接して、レバーの回転が規制されるように形成されてなる規制手段が形成されているので、レバー枢支部に形成された当接面がゴルフバッグ本体の表面に当接してレバーの回転の規制とともにゴルフバッグ本体の傾きが規制され、ゴルフバッグ本体が倒れず、安定的に自立させることができる。

【0031】請求項5の発明では、レバー枢支部の規制手段は、レバー枢支部の枢軸よりゴルフバッグ本体の底部側に向けて形成され、傾いたゴルフバッグ本体の底部の表面とレバー枢支部の当接面とが密着するように形成されてなるので、レバー枢支部に形成された当接面がゴルフバッグ本体の表面に当接してレバーの回転の規制とともにゴルフバッグ本体の傾きが規制され、ゴルフバッグ本体が倒れず、安定的に自立させることができる。

【0032】請求項6の発明では、レバー枢支部の規制手段は、レバー枢支部の枢軸より上方に向けて突き出し形成され、傾いたゴルフバッグ本体の底部の表面とレバー枢支部の当接面とが密着するように形成されてなる、レバー枢支部の規制手段が枢軸部分より上方に向けて形成されているので、より確実にゴルフバッグ本体の傾き角度を規制することができる。

【0033】請求項7の発明では、規制手段は、底部に形成されるストッパと前記ストッパにより回動角度が規制されるレバー枢支部の規制手段とからなるので、より確実にゴルフバッグ本体の傾き角度を規制することができる。

【0034】請求項8の発明では、前記枢軸は、その先端に雄ねじが形成されたねじ棒と、その先端に雌ねじが形成されたねじ棒とから形成され、本体支持部とレバー枢支部との貫通孔に貫挿され、前記雌ねじと雄ねじとで螺着して形成されているので、1本の枢軸が形成され、レバー枢支部を適宜な角度で枢軸を中心に回動させることができる。

【0035】請求項9の発明では、枢軸の雄ねじと雌ねじとが螺着された部分は、レバー枢支部内に位置するように形成されているので、比較的弱い雄ねじと雌ねじとが螺着された部分がレバー枢支部により曲げにも強くなり、レバーの耐久性を増すことができる。

【0036】請求項10の発明では、本体支持部は、その中央凸部が幅広で、その中央凸部を挟んで両側に形成される凸部が比較的幅狭であり、レバー枢支部は、本体

凸部の中央の凸部と両側方の凸部との間に嵌合する中間凸部と、嵌合する中間凸部の両側に形成され、本体凸部の両側方の凸部が嵌合するように形成された両側方の凸部とからなるので、レバー枢支部と本体凸部とが複数の凸部をもって構成され、かつ、それら複数の凸部が嵌合するように構成されているので、レバーとゴルフバッグ本体とが一定の角度を有するまで確実に回転するとともに、適宜な角度で確実に固定され、ゴルフバッグ本体を自立させることができる。

【0037】請求項11の発明では、枢軸の雄ねじと雌ねじとが螺着された部分は、本体支持部の中央の比較的幅広の中央凸部内に位置するように形成されているので、比較的弱い雄ねじと雌ねじとが螺着された部分が中央凸部により曲げにも強くなり、レバーの耐久性を増すことができる。

【0038】この発明の上述の目的、その他の目的、特徴および利点は、図面を参照して行う以下の実施例の詳細な説明から一層明らかとなろう。

【0039】

【実施例】図1は、この発明の一実施例である自立型ゴルフバッグの脚部を拡げて自立させた状態を示す斜視図であり、図2は、その脚部を折り畳んで直立させた状態を示す斜視図である。この発明にかかる自立型ゴルフバッグ10は、円筒状の胴体12を含み、胴体12の下端部には、底部14が固着される。すなわち、胴体12と底部14とから、この実施例のゴルフバッグ本体が形成される。底部14の外側表面には、下部連結手段16が形成され下部連結手段16で軸回転可能に作動レバー18が軸支される。一方、胴体12の外側表面で、下部連結手段16の真上の上部には、上部連結手段20が形成され、上部連結手段20には2本のスタンド脚22が軸支される。そして、スタンド脚22と作動レバー18とは、スタンド脚支持棒24により連結される。

【0040】次に、図3および図4を参照しながら、この実施例の自立型バッグ10の底部14および下部連結手段16の構造について説明する。底部14は、略矩形の底皿26を含む。底皿26の外周部から上方に延びるようにして、立上り部28が形成される。底皿26および立上り部28は、たとえば合成樹脂などにより一体に成形される。胴体12は、底部14の立上り部28にかぶせるようにしてはめ込まれ、縫合部30でたとえばミシン縫いなどにより縫い付けられて胴体12と固着される。また、底皿26の表面には、下部連結手段16が設けられる。

【0041】次に、図3ないし図6を参照しながら、作動レバー18についてさらに説明する。作動レバー18は、全体的に断面L字形ないし断面C字形に形成される。この作動レバー18は、平面D字形の接地部18aを含む。接地部18aの下面は、自立型ゴルフバッグ10の下部にてゴルフバッグ本体を支え、かつ後述す

るようにゴルフバッグ本体の傾きに連動してスタンド脚22を開閉させるために接地される。また、接地部18aの上面には、スタンド脚支持棒24を連結するための断面略C字形の支持棒連結部18bが一体に形成される。

【0042】前記ゴルフバッグ本体の底部14に、作動レバー18を支持する本体支持部たる本体凸部32が突き出し形成され、前記本体凸部32は、その胴部に貫通孔34を形成され、その中央凸部32aが幅広で、その中央凸部32aを挟んで両側に形成される凸部32bが比較的幅狭である。前記本体凸部32と噛合するように前記作動レバー18をゴルフバッグ本体に枢支させるレバー枢支部たるレバー凸部36が突き出し形成され、前記レバー凸部36は、その胴部に貫通孔38が形成され、前記本体凸部32の中央凸部32aと両側方の凸部32bとの間に嵌合する中間凸部36aと、前記嵌合する凸部36aの両側に形成され且つ前記本体凸部32の両側方の凸部32bが嵌合するように形成された両側方の凸部36bとからなる。前記ゴルフバッグ本体の底部14の本体凸部32とレバー凸部36とが噛合され回転するように、枢軸40が前記貫通孔34、38に貫通されている。前記レバー凸部36は、ゴルフバッグ本体の底部14の表面に当接される当接面が形成され、ゴルフバッグ本体が傾けられたとき、前記当接面がゴルフバッグ本体の表面に当接して、作動レバー18の回転が規制されるように形成されてなる規制手段が形成されている。前記レバー凸部18の規制手段は、レバー凸部18の貫通孔34より上方に向けて突き出し形成され、傾いたゴルフバッグ本体の底部14の表面とレバー凸部18の当接面とが密着するように形成されてなる。前記枢軸40は、その先端に雄ねじが形成されたねじ棒40aと、その先端に雌ねじが形成されたねじ棒40bとから形成され、本体凸部32の貫通孔34とレバー凸部36との貫通孔38に貫挿され、前記雌ねじと雄ねじとで螺着して形成され、前記枢軸40の雄ねじと雌ねじとが螺着された部分は、本体凸部32の中央の比較的幅広の中央凸部32b内に位置するように形成されている。

【0043】次に、図7および図8を参照しながら、スタンド脚22をゴルフバッグ本体に連結するための上部連結手段20についてさらに説明する。上部連結手段20は、上部支持板42を含む。上部支持板42は、平面方形の合成樹脂製板からなり、その四隅近傍において胴体12の上部外側表面の上部にリベット止めまたはその他周知の方法で固定されている。上部支持板42は、円筒状の胴体12の外側表面に沿うように湾曲されてなり、たとえば合成樹脂材料などにより形成される。上部支持板42は、上部支持板42と一体に成形された連結部44を備える。連結部44は、胴体12の長手軸線と直交し、胴体の円周方向に沿った方向に形成される。このとき、連結部44は、スタンド脚22をハの字形に拡

げることができるように、中央部が外側へ平面略V字形状に突出するように形成され、両端部が表面外側に向かってハの字形状に広がるように形成される。

【0044】また、連結部44の両端部には、胴体12の円周方向に沿う方向に開口するように軸受け部46が形成されている。軸受け部46は、連結部44の両端より中央に向けて穿たれた有底開口状に形成される。そして、軸受け部46には、回動可能に略L字形状の上部連結部48が軸支される。上部連結部48の一端部には、軸受け部46に嵌め込み軸支されるための断面円筒状の支点軸50が形成される。上部連結部48の、略L字形状に折り曲げられた他端部には、スタンド脚22の上端が固着される。したがって、上部連結部48の支点軸50が、連結部44の軸受け部46に回転可能に嵌め込まれ軸支されることにより、スタンド脚22をゴルフバッグ本体の胴体12に回動可能に連結することができる。

【0045】また、この自立型ゴルフバッグは、スタンド脚22と胴体12とが離間する方向に上部連結部48が回転した時に、スタンド脚22の下部と胴体12との間が設定された角度、すなわちゴルフバッグ本体が傾きすぎて倒れることがない角度以上に広がるようにするための、ストッパ52を含む。ストッパ52は、上部連結手段20に形成される。図7ないし図9を参照しながら、ストッパ52についてさらに説明する。ストッパ52は、互いに噛み合うように形成された第1の突起部54と第2の突起部56とからなる。図9(A)に示すように、第1の突起部54は、上部連結部48の上端に突き出し形成される。第1の突起部54は、上部連結部48の回転方向と交差する当接面54aが形成された断面扇型の突起からなる。第1の突起部54の当接面54aは、上部連結部48の上端部に略垂直に設けられる。また、図9(A)に示すように、第2の突起部56は、上部支持板42の外表面に突き出し形成される。第2の突起部56は、上部支持板42の外表面に、上部連結部48の回転方向と交差する当接面56aが形成された断面略台形の突起からなる。第2の突起部56の当接面56aは、上部支持板42の外表面に略垂直に設けられ、しかも、第2の突起部56の接合面56aは、上部支持板42より外側に離れ行くに従って、上方に向けて傾斜する断面鋸歯形状に形成されるため、上部連結部48が回転した際に第1の突起部54の当接面54aを受け止めて確実に噛み合い、比較的大きな荷重もしっかりと支持することができる。

【0046】図7ないし図9を参照しながら、このストッパ52の作用についてさらに説明する。ストッパ52は、図7および図8に示すように、上部連結部48が支点軸50を枢軸として回転したときに、図8および図9(B)に示すように、上部支持板側当接面と、上部支持板42に突き出し設けられた第2の突起部56の当接面とが、接して噛み合い、第2の突起部56の当接面によ

り、上下方向に第1の突起部54が支持され、スタンド脚22が一定の角度以上に広がらないよう構成されている。第1の突起部54の当接面と、第2の突起部56の当接面とが接合し噛み合うことにより、上部連結部48およびスタンド脚22の回動が確実に制止される。こうして、自立時には、スタンド脚22にかかる荷重が従来例のように作動レバーのみに集中してかかることがなく、ストッパ52にも分散させて支持することができるため、自立式ゴルフバッグ10の強度が上がり、耐久性が向上する。

【0047】次に、図1および図2を参照しながら、スタンド脚22およびスタンド脚支持棒24についてさらに説明する。スタンド脚22は、ゴルフバッグ本体の胴体12を支えて斜めに自立させるためのものである。スタンド脚22は、細長い円柱状に形成され、2本準備される。スタンド脚22は、上部連結部48、連結部44、および上部支持板42を介して、胴体12に回動可能に取り付けられる。すなわち、スタンド脚22の上端部は、上部連結部48の他端部に固着され、スタンド脚22の下端部は、胴体12の直立時に略垂直に下方に延びるようにして配置される。そして、このスタンド脚22は、連結部44に軸支された上部連結部48と一体に、特にその下部が胴体12の表面に近接したり離間したりするように回動する。また、スタンド脚22は、それぞれ上端近傍が、略くの字形状に折れ曲げられて形成される。スタンド脚22の折れ曲げの角度を所望の角度に形成することにより、ハの字形状に開くスタンド脚22の開き幅を所望の開き幅にすることができ、傾けられたゴルフバッグ本体を安定的に支えることができる。なお、スタンド脚22は、略くの字形状に形成することに限らず、直線状に形成してもよい。

【0048】さらに、スタンド脚22の中央より上部よりには、円筒状のスタンド脚連結部材58が巻着される。図2に示すように、スタンド脚連結部材58には、ゴルフバッグ本体側に突き出るように鉤支持部58aが設けられ、鉤支持部58aは、スタンド脚支持棒24の鉤部24aを引っかけるようにして回動自在に支持する。鉤支持部58aは、半円形状に形成され、その略中央部に鉤着のための貫通孔が形成される。スタンド脚支持棒24の鉤部24aは、鉤支持部58aの貫通孔に挿通され、回動自在に支持される。この時、貫通孔に挿通された鉤部24aの先端には、それぞれ抜け止めのためのキャップを固着してもよい。

【0049】また、スタンド脚支持棒24は、スタンド脚22と作動レバー18とを連結して連動させるためのものである。さらに、スタンド脚支持棒24は、自立時にはスタンド脚22を補強し、また、スタンド脚22が連結部44から抜けてはずれることを防止するため、スタンド脚22を連結部44方向へ付勢する働きもする。スタンド脚支持棒24は、たとえば鋼などの材料からな

11

る細長い棒を、折り返して、細長い略U字形状に形成され、常時は開口部分を閉じる方向に付勢されるように形成されている。スタンド脚支持棒24は、図7に示すように、折り返し部24aの部分で作動レバー18の支持棒連結部18bに回動可能に連結される。一方、スタンド脚支持棒24の上端部には、それぞれ鉤支持部58aに回動自在に係止するために鉤状に折り曲げられた鉤部24aが形成される。スタンド脚支持棒24の下端近傍は、それぞれゴルフバッグ本体から突き出た部材に当たらないようにし、かつ、作動レバーからの力の向きを変えてスタンド脚22を開きやすくするためにクランク状に折り曲げられる。そのため、スタンド脚支持棒24は、胴体12の表面壁12aにぴったりと沿うようにして収納することができる。なお、スタンド脚支持棒24は、クランク状に形成することに限らず、ゴルフバッグ本体の胴体12の形状に沿うようにして形成すればよく、直線状に形成してもよい。

【0050】次にこの実施例の自立型ゴルフバッグ10の作動状況を図を参照しながら説明する。図1に示すようにゴルフバッグ本体を傾けて自立させた状態から、図2に示すように直立した状態にする時には、スタンド脚支持棒24の弾力性により、作動レバー18が地面方向へ回転する。そして、スタンド脚支持棒24が作動レバー24方向へ引っ張られる。すると、スタンド脚支持棒24により、スタンド脚22が、胴体12方向へ引っ張られ、図2に示すように、スタンド脚22が胴体12の表面に沿うようにして、折り畳まれることとなる。また、図2に示す直立状態から、図1に示す傾斜状態にする時には、底部14が傾けられていくに従って、作動レバー18に地面からの荷重がかかり、作動レバー18が上方へ向かって軸回転することとなる。その結果、スタンド脚支持棒24がスタンド脚22方向へと突き上げられ、スタンド脚22が、図2に示すように表面から見てハの字形状に広げられ、ゴルフバッグ本体を安定的に自立させることができる。

【0051】ゴルフバッグ本体は、その底部14と作動レバー18とスタンド脚部22で地面に載置される。この時、荷重は、下部連結手段16と上部連結手段20とにかかるが、この実施例の各連結部は、上述のように、比較的簡単な構造でありながら従来の物よりも強固であり、より大きな荷重を支えることができる。また、従来から最も破損しやすい作動レバー18が、着脱自在の下部連結手段34により軸支されているので、容易に交換でき、メンテナンスが容易である。そのため、この自立型ゴルフバッグ10は、長期間にわたって使用することができるものである。さらに、作動レバー18がD字形に形成され、従来のものよりも接地面積が大きいので、より安定的にバッグが支えられることとなる。

【0052】図10および図11は、この発明の変形例を示す分解斜視図である。この変形例は、スタンド脚2

12

2の抜けを止め、かつ、所定の角度以上に回転しないようにするための、抜止手段としてのストップねじ60を含む。連結部44の両端近傍には、上部連結部48の回転方向に長くなるように開口された溝部62が形成される。溝部62の長さは、スタンド脚22の開閉する角度に応じて所望の長さに形成される。ストップねじ60は、溝部62を通して、上部連結部48の支点軸50に螺合される。したがって、ストップねじ60は、連結部48の内部の支点軸50から、連結部48の外部へ突き出るようにして設けられ、スタンド脚22が連結部44から抜けて外れることを制止する。そのため、ゴルフバッグ本体の自立時には、上部連結手段20が強固なものとなり、確実に荷重を支持することができる。

【0053】次に、図10および図11を参照しながら、上部連結部48およびスタンド脚22を回動させたときの状況を説明する。ゴルフバッグ本体の直立時には、図11に示すように、ストップねじ60が溝部62の上部支持板42側の一端部62aに当接し、それ以上のスタンド脚22の回転を制止する。また、ゴルフバッグ本体の自立時には、図11に示すように、ストップねじ60が溝部62の他端部62bに当接し、それ以上の回転を制止する。また、溝部62の他端部62bには、ストップねじ60を支えるようにして略U字形の補強部材64が固着される。したがって、自立時にストップねじ60にかかる荷重を確実に支持することができる。また、ストップねじ60により、上部連結部48およびスタンド脚22が抜け出ようとする力が連結部44の長手方向にかかった場合にも、確実にその力に対抗することができる。したがって、この変形例によれば、簡易な構造でありながら、強度と耐久性とに優れ、しかもメンテナンスが容易である自立型ゴルフバッグ10を得ることができる。

【0054】図12は、この発明の別の実施例である自立型ゴルフバッグの底部近傍を示す斜視図であり、図13は、その要部の分解斜視図である。この発明にかかる自立型ゴルフバッグ110は、円筒状の胴体112を含み、胴体112の下端部には、底部114が固着される。すなわち、胴体112と底部114とから、この実施例のゴルフバッグ本体が形成される。底部114の外側表面には、下部連結手段116が形成され下部連結手段116で軸回転可能に作動レバー118が軸支される。一方、胴体112の外側表面で、下部連結手段116の真上の上部には、前記実施例と同様な上部連結手段（図示せず）が形成され、上部連結手段には、前記実施例と同様な2本のスタンド脚（図示せず）が軸支される。そして、スタンド脚と作動レバー118とは、スタンド脚支持棒124（図14図示）により連結される。

【0055】次に、図13を参照しながら、この実施例の自立型バッグ110の底部114および下部連結手段116の構造について説明する。底部114は、略矩形

13

の底皿126を含む。底皿126の外周部から上方に延び出るようにして、立上り部128が形成される。底皿126および立上り部128は、たとえば合成樹脂などにより一体に成形される。胴体112は、底部114の立上り部128にかぶせるようにしてはめ込まれ、縫合部130でたとえばミシン縫いなどにより縫い付けられて胴体112と固着される。また、底部114の表面には、下部連結手段116が設けられる。

【0056】次に、図14ないし図15も参照しながら、作動レバー118についてさらに説明する。作動レバー118は、全体的に断面し字形状ないし断面C字形状に形成される。この作動レバー118は、平面D字形状の接地部118aを含む。接地部118aの下面は、自立型ゴルフバッグ110の下部にてゴルフバッグ本体を支え、かつ後述するようにゴルフバッグ本体の傾きに連動してスタンド脚（図示せず）を開閉させるために接地される。また、接地部118aの上面には、スタンド脚支持棒124を連結するための断面略C字形状の支持棒連結部118bが一体に形成される。

【0057】前記ゴルフバッグ本体の底部に、作動レバー118の支持部たる本体凸部132が底皿126より突き出し設けられる。前記本体凸部132は、合成樹脂製の底皿126と同一素材で一体成形され、その胴部に貫通孔134を形成されている。そして、前記一對の本体凸部132の間には、断面四角形でその頂部が底皿と直交する平面が形成されたストッパ部135が形成されている。前記一對の本体凸部132の間に嵌合するように、前記作動レバー118をゴルフバッグ本体に枢支させるレバー枢支部たるレバー凸部136が突き出し形成され、前記レバー凸部136は、前記底皿126のストッパ部135と係合する段部136aが凹設され、その胴部に貫通孔138が形成されてなる。前記ゴルフバッグ本体の底部114の本体凸部132とレバー凸部136とが噛み合され回転するように、枢軸140が前記貫通孔138に貫挿されている。

【0058】前記レバー凸部136は、ゴルフバッグ本体の底部114の表面に当接される当接面が形成され、ゴルフバッグ本体が傾けられたとき、前記当接面がゴルフバッグ本体の表面に当接するとともに、ストッパ部135の頂部とレバー凸部136の段部136aとが係合して、レバー118の回転が規制されるように形成されてなる規制手段が形成されている。前記レバー118の規制手段は、レバー凸部136の貫通孔134より底皿114側に向けて突き出し形成され、傾いたゴルフバッグ本体の底部114の表面とレバー凸部136の当接面とが密着するように形成され、且つ傾いたゴルフバッグ本体の底皿126と直交する方向に段部136aが形成されてなる。前記枢軸140は、その先端に雄ねじが形成されたねじ棒140aと、その先端に雌ねじが形成されたねじ棒140bとから形成され、本体凸部132と

14

レバー凸部136との貫通孔134、138に貫挿され、前記雌ねじと雄ねじとで螺着して形成され、前記枢軸140の雄ねじと雌ねじとが螺着された部分は、比較的幅広のレバー凸部136内に位置するように形成されている。

【0059】引き続き、前記実施例とは別の実施例について、図16ないし図20に基づいて説明する。この支持スタンド付きゴルフバッグ200は、ゴルフバッグ本体202の外側表面の上部に取付けられた上部プレート204と、ゴルフバッグ本体202の外側表面の下部に取り付けられ、前記上部プレート204と長手方向において直線上に並ぶ位置にある下部プレート206と、前記上部プレート204に軸回転が可能ないように連結された、左右一對の上部連結装置208と、前記上部連結装置108に取付けられたスタンド脚210と、前記スタンド脚210の軸屈曲部分よりやや上部に取り付けられ、鋼線からなるスタンド脚支持棒212の上部を軸回転が可能ないように連結するスタンド脚連結装置213と、前記下部プレート206に軸回転が可能ないように連結された、作動レバー214とを含む。

【0060】前記上部プレート204には、スタンド脚210が緩やかに静かに開閉するように、突起216が上部連結装置208側に向けて突き出し設けられており、前記上部連結装置208には前記突起216と噛み合うようにした後部突起218が、ゴルフバッグ本体202側に向けて突き出し設けられている。また、上部連結装置208には、ゴルフバッグ本体を支える装置として予め設定された角度に広げられたときに、前記突起216と噛み合い、広げられた角度を保持する機能を有する上部突起220が、前記後部突起218と直行する方向に向けて上方に突き出し設けられている。そして、ゴルフバッグ本体202とスタンド脚210との角度、すなわちゴルフバッグ本体を傾けたとき、スタンド脚210によってゴルフバッグ本体202が倒れないように保持するに適した角度は、ゴルフバッグ本体202とスタンド脚210とのなす角度が約50度ないし65度の範囲にあるのが最適である。

【0061】スタンド脚210は、ゴルフバッグ本体202の外側表面にはほぼ平行して垂直に固定され、軸回転が可能ないように、スタンド脚210の上部に固定された上部連結装置208の上端がそれぞれ内側に向けて屈曲され、その屈曲部分を枢軸として、上部プレート204の軸受部222に回転可能に連結され、外向きに広がるよう構成されている。

【0062】作動レバー224は、左右一對の軸回転が可能な左右一對の作動レバー側面連結部226と作動レバー底面連結部228とが形成され、前記スタンド脚支持棒212のU字型下部と作動レバー底面連結部228とが回転可能に連結されている。作動レバー224は、断面略し字型に屈曲形成され、作動レバー側面連結部2

15

26と作動レバー底面連結部228が形成されている箇所は作動レバー114の各先端に形成されている。もともと、作動レバー114は、断面円弧状に形成されてもよい。そして、作動レバー224の作動レバー側面連結部226側の先端は、ゴルフバッグ本体を傾けたとき、その屈曲部分と底皿の表面との間でゴルフバッグ本体を保持できるように、傾斜面からなる作動レバー止め230が形成されている。

【0063】これを図面についてさらに説明すれば、このゴルフバッグは、ゴルフバッグとの連結部である上部プレート204と下部プレート206をビス止め等により、それぞれゴルフバッグ本体に固定する。そして、ゴルフバッグ本体をスタンド脚210側に傾けることにより、作動レバー214は地面からの圧力を受け、またゴルフバッグ本体の重量により軸回転が可能な様に連結された作動レバー側面連結部226を枢支点として作動レバー底面連結部228が上部へ押し上げられ、作動レバー底面連結部228で軸回転が可能な様に連結されているスタンド脚支持棒212も同様に上部へ押し上げられる。そしてスタンド脚支持棒212上部より、スタンド脚連結装置213に力が加わり、上部プレート204より軸回転しながら、スタンド脚210が外側に広がっていく様に角度を付けて取り付けられている上部連結装置208は、スタンド脚210と共に外側にスタンド脚支持棒212の弾性に逆らい、ゆっくりと開いて行く。そして、予め設定された角度に拡がったとき、上部プレート204に付いている突起216と上部連結装置208に付いている上部突起220がかみ合い、スタンド脚210の拡がり過ぎを防ぐ。下部プレート206においては、作動レバー214の一端にある作動レバー止め230が下部プレート206とかみ合いスタンド脚210の拡がり過ぎを防ぐように形成されているので、ゴルフバッグ本体は、作動レバー224の屈曲部が地面より受ける力により、所定の角度以上に傾くことはない。

【0064】なお、この実施例においては、上部連結装置208の裏側に、連結棒232が掛け渡して取り付けられているので、スタンドが拡がったときの角度を保つことがより確実にできる。そして、ゴルフバッグを運ぶためにゴルフバッグ本体を垂直に立てたり、或いは地面から離して持ち上げたとき、スタンド脚210はスタンド脚支持棒212の弾性およびバネ234の弾性、さらにスタンド脚210の自重により閉じる。この様にして、このスタンド付きゴルフバッグは、非常に効率良く脚部を開閉することができる。

【0065】なお、この発明は、上記実施例に限定されることはなく、たとえば、上部プレート204、下部プレート206、上部連結装置208に取り付けられている後部突起218、上部突起220、そして上部プレート204の突起216、さらに作動レバー214、そして上部連結装置208、連結棒232の形状を種々変更

16

してもよい。また、スタンド脚支持棒212の上端部とスタンド脚連結装置213の連結部に関して、スタンド脚支持棒212の上端部が抜けにくい様に、スタンド脚支持棒212の上端部が抜けるのを防ぐ止め具を付けてもよい。さらに、スタンド脚支持棒212およびスタンド脚210の形状に関しても、特に限定はしない。

【図面の簡単な説明】

【図1】この発明の一実施例である自立型ゴルフバッグが自立した状態を示す斜視図である。

10 【図2】図1に示す自立型ゴルフバッグが直立した状態を示す斜視図である。

【図3】図1に示す自立型ゴルフバッグの要部を示す斜視図である。

【図4】図1に示す自立型ゴルフバッグの要部を示す分解斜視図である。

【図5】(A)は、図1に示す自立型ゴルフバッグの直立時の作動レバーを示す斜視図である。(B)は、自立型ゴルフバッグの傾けたときの作動レバーを示す斜視図である。

20 【図6】(A)は、図1に示す自立型ゴルフバッグの直立時の状況を示す図解図である。(B)は、自立型ゴルフバッグの傾けたときの状況を示す図解図である。

【図7】図1に示す自立型ゴルフバッグの上部連結手段の近傍を示す斜視図である。

【図8】図8図示部の作動状況を示す斜視図である。

【図9】(A)は、図1に示す自立型ゴルフバッグの上部連結手段近傍を示す図解図である。(B)は、その作動状況を示す図解図である。

30 【図10】図1図示例の変形例の上部連結手段近傍を示す分解斜視図である。

【図11】図11に示す変形例の作動状況を示す分解斜視図である。

【図12】この発明の別の実施例である自立型ゴルフバッグの底部近傍を示す斜視図である。

【図13】図12に示す自立型ゴルフバッグの要部の分解斜視図である。

【図14】図12に示す自立型ゴルフバッグの直立時の作動レバーを示す斜視図である。

40 【図15】図12に示す自立型ゴルフバッグの直立時の作動レバーを示す分解斜視図である。

【図16】(A)は、この発明のゴルフバッグのさらに別の実施例のスタンドが閉じられているときの斜視図であり、(B)は、スタンドが開かれたときの斜視図である。

【図17】(A)は、図16図示例のスタンドが閉じられているときの上部連結装置部分の側面図であり、

(B)は、図16図示例のスタンドが開かれたときの上部連結装置部分の側面図である。

50 【図18】図16図示例の上部連結装置部分を上部プレート側から見た正面図である。

17

18

【図19】(A)は、図16図示例のスタンドが閉じられているときの作動レバー部分の側面図であり、(B)は、図16図示例のスタンドが開かれたときの作動レバー部分の側面図である。

【図20】図16図示例の作動レバー部分の拡大斜視図である。

【符号の説明】

10, 110 自立型ゴルフバッグ

12, 112 胴体

12a 表面壁

14, 114 底部

16, 116 下部連結手段

18, 118 作動レバー

18a, 118a 接地部

20 上部連結手段

22 スタンド脚

24, 124 スタンド脚支持棒

26, 126 底皿

28, 128 立上り部

30, 130 縫合部

32, 132 本体凸部

34, 134 貫通孔

36, 136 レバー凸部

38, 138 貫通孔

40, 140 枢軸

42 上部支持板

44 連結部

46 軸受け部

48 上部連結部

50 支点軸

52 ストップ

54 第1の突起部

56 第2の突起部

58 スタンド脚連結部材

58a 鉤支持部

60 ストップねじ

62 溝部

10 64 補強部材

70 アリ溝部

72 ほぞ部

74 キャップ

204 上部プレート

206 下部プレート

208 上部連結装置

210 スタンド脚

212 スタンド脚支持棒

213 スタンド脚連結装置

20 214 作動レバー

216 突起

218 後部突起

220 上部突起

226 作動レバー側面連結部

228 作動レバー底面連結部

230 作動レバー止め

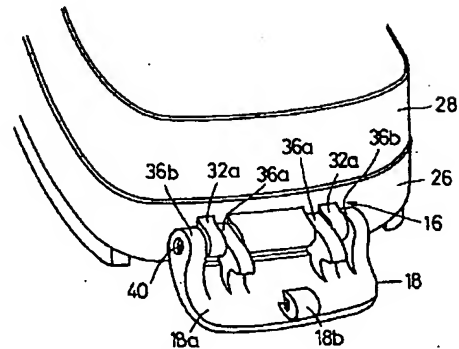
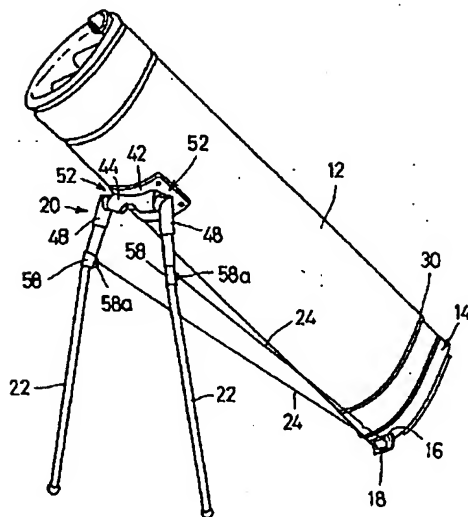
232 連結棒

234 バネ

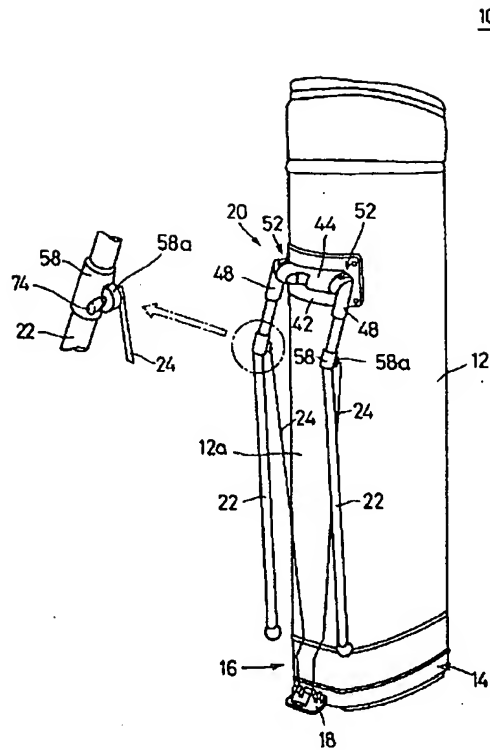
【図1】

【図3】

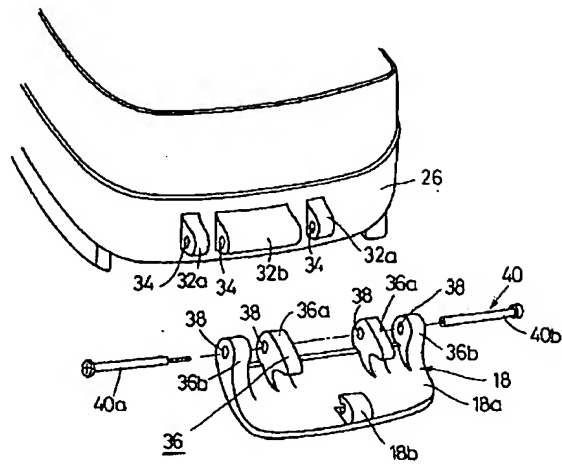
10



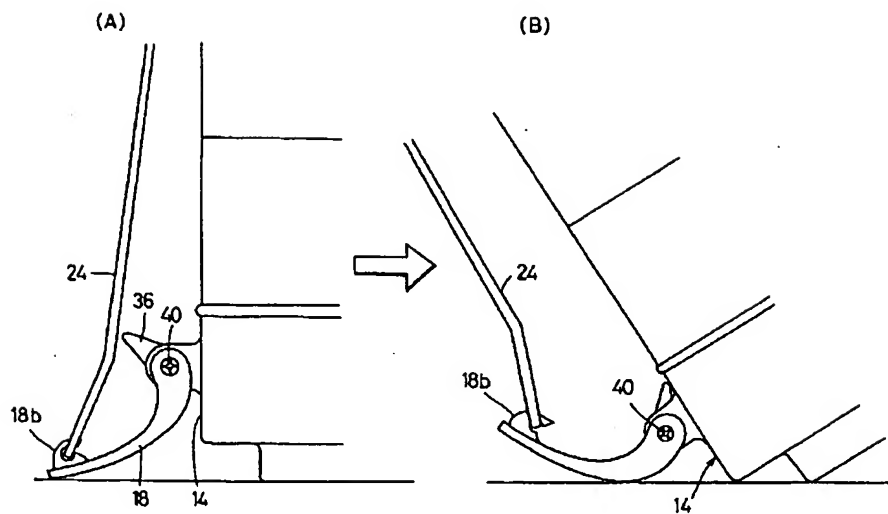
【図2】



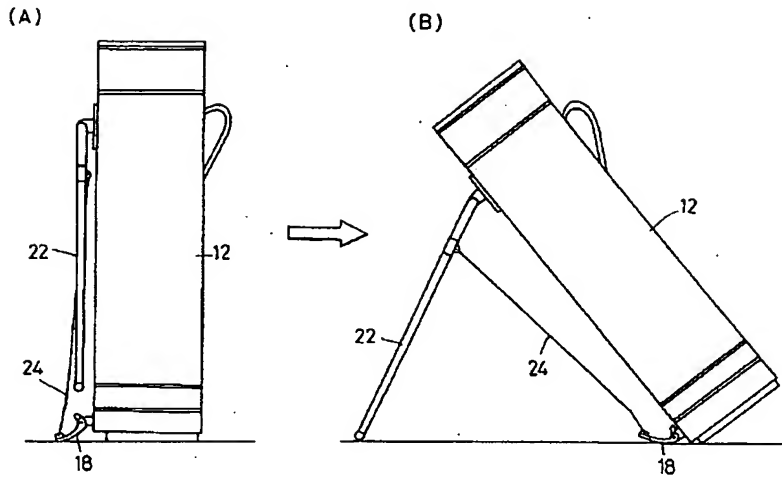
【図4】



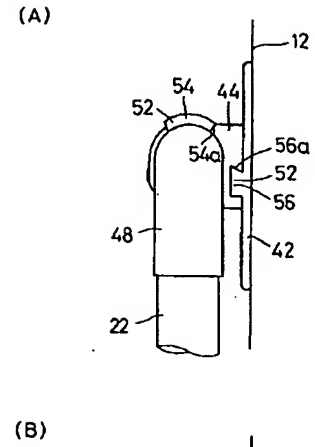
【図5】



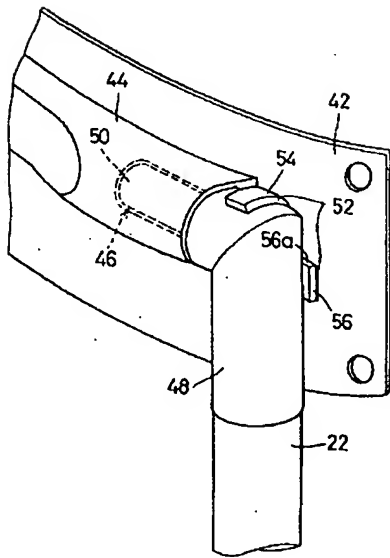
【図6】



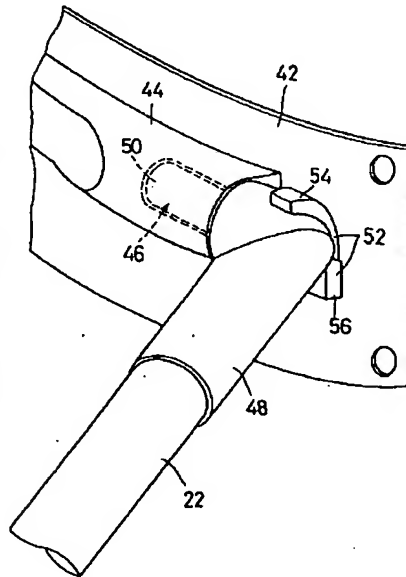
【図9】



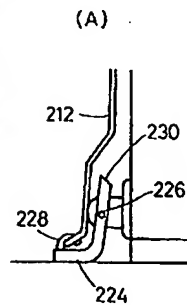
【図7】



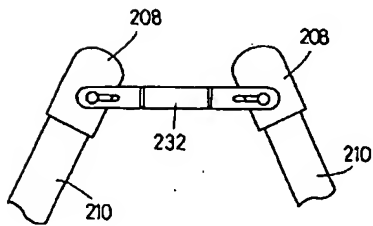
【図8】



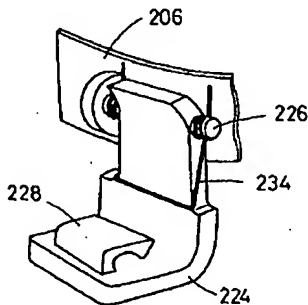
【図19】



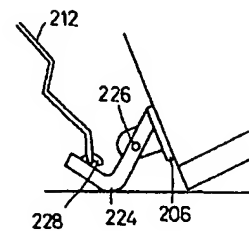
【図18】



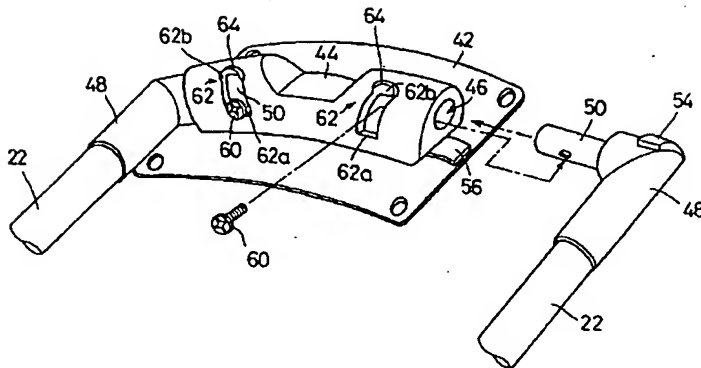
【図20】



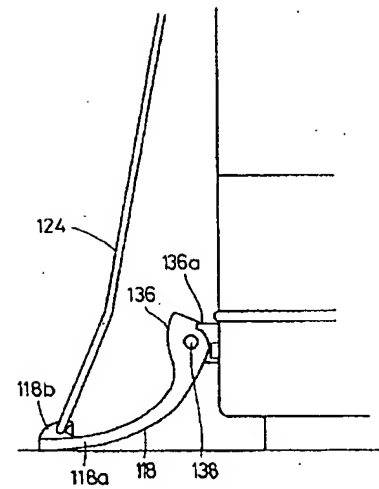
(B)



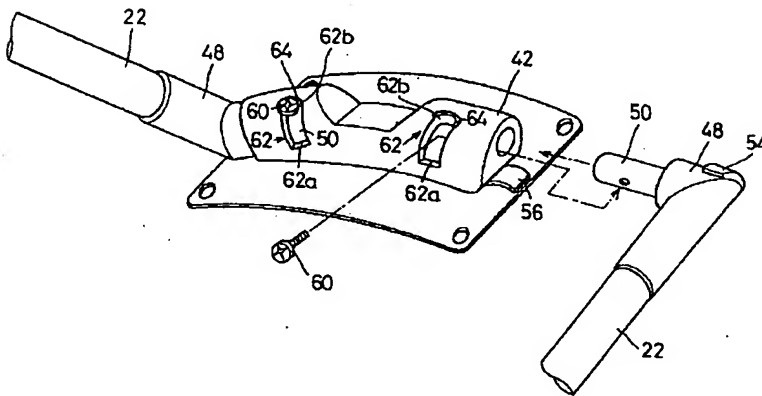
【図10】



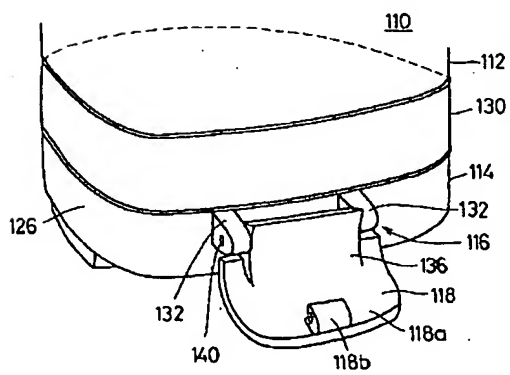
【図14】



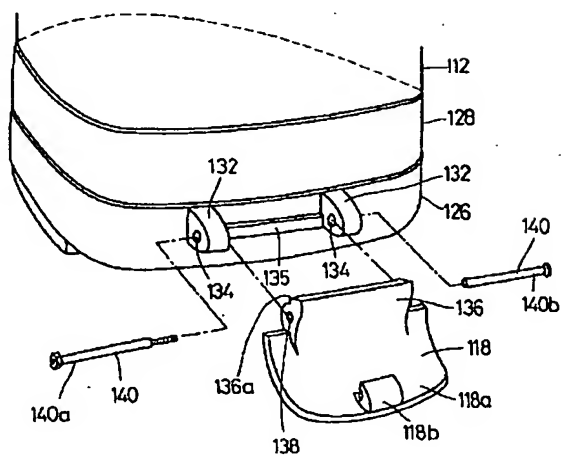
【図11】



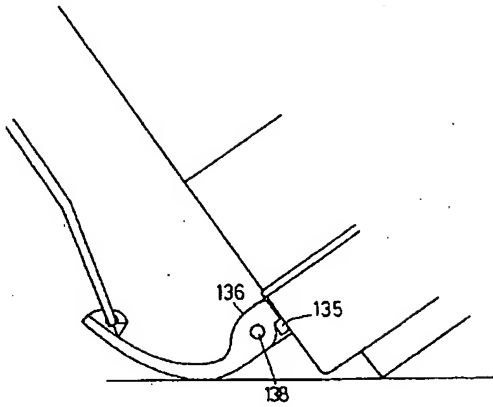
【図12】



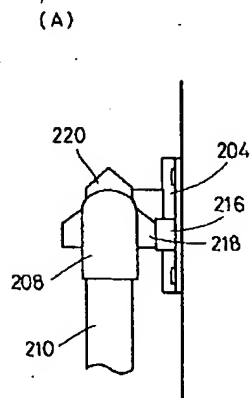
【図13】



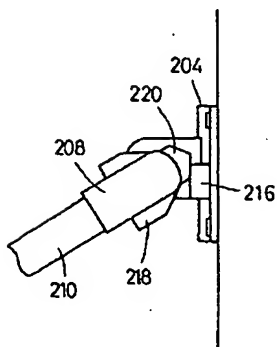
【図15】



【図17】



(B)



【図16】

